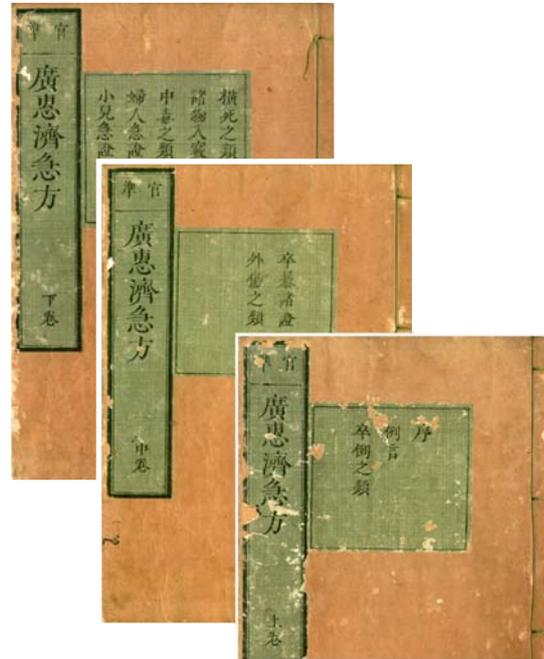
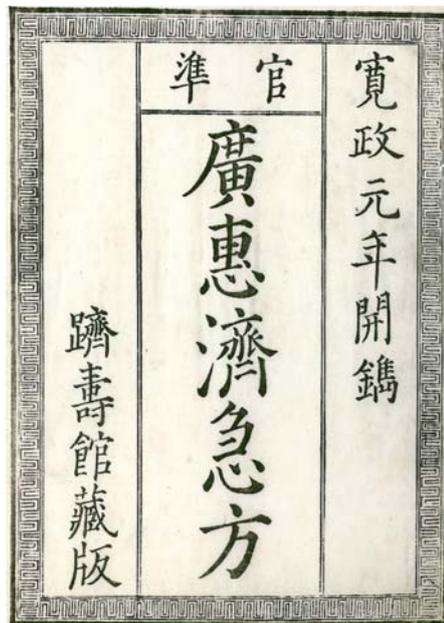
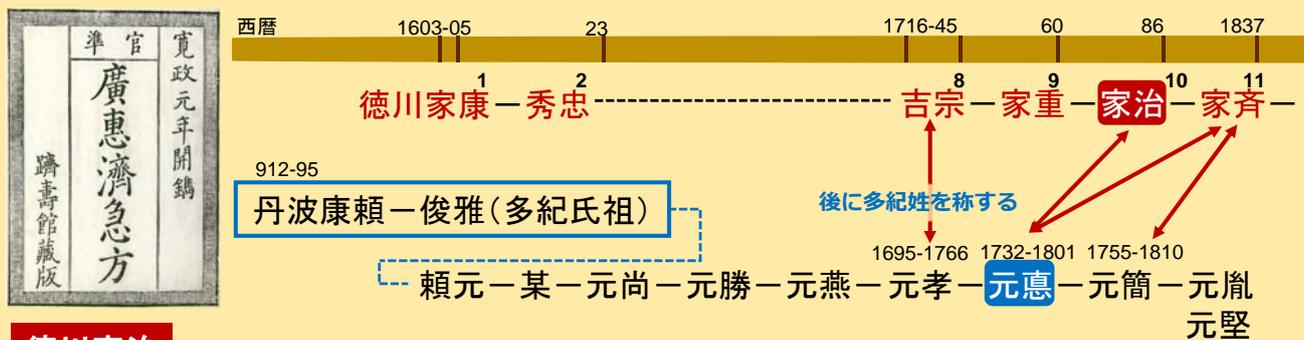


# 『広惠濟急方』に見る江戸時代の民間救急療法

民族薬物資料館では、国文学研究資料館との共同研究（歴史的典籍ネットワーク事業）として、江戸時代の救急医療の処置法を記した医書『広惠濟急方（こうけいさいきゅうほう）』のデータベース化を進め、平成30年3月30日に公開しました。



## 『広惠濟急方』が出版された時代背景と本書の内容



### 徳川家治

「急病に罹った時医師を請う時間もなく、また遠方で医師がいない土地もある。ましてや病気の治療方法も知らずに命を落とすことも多いという。そのような時に救急の方法を記した書物があれば、広く世に報いることができる。」

多紀元惠 天明七年(1787年): 『濟急方』完成  
元簡 寛政元年(1789年): 『官準 広惠濟急方』出版

- 医師の経験や民間の伝承を根拠とし、救急医療に際しての民間療法を中心に記載
- 主として中国の医書などを引用し、優れたものを抜粋して編集
- 江戸時代に庶民が医師にかかる前に使用していた身近な薬物約300品目(生薬、新鮮な植物、食品などを含む)を収載
- 薬物の内訳は、植物性約210品目、動物性約70品目、鉱物性約20品目

# 編纂の主旨

# 例言

- 1 病気の本質を知り対処する（妄りに丸薬や灸を施し、気血水が足りないのに下痢をさせ、足りているのに増やす等の治療をしてはならない）。一服の薬・一仕の灸も大きな誤りなく使う。
- 2 国字を用いるのは、病人がいる家の人が読んでその内容を理解させるため。予め熟読して凡の内容を理解し、日常において一通りを座右の銘にする。
- 3 全ての病人には病因や病症がある。病状を見定めた上で、鍼・灸・薬などの適合した処置を施す。本書では各部のはじめに病症を載せ大略を述べた後に治療法を掲載した。
- 4 学説は古人の定説の中で最も正しいもので今でも符合するもの、薬の調合は古今華夷の区別なく全て諸家の医書・本草書に照らして考え、試薬して効果があり、忙しい家に役立つものを掲載。
- 5 病名は古今同じでなく、大抵は古語が妥当である。しかし、本書は古くからの習わしによって、人々が聴き覚えている病名に従った。
- 6 薬効を理解していれば明らかに良薬になりうる。にわか薬が必要になった時に用いる以下のものを掲載した。
  - ・探しやすく入手しやすいもの（民家の日常品であり合わせの食品類など）
  - ・薬種屋で販売しているもの
  - ・生の草木は採りやすいもの（民家の庭に栽植、路傍や野原に野生）
 地域毎に役立つように一つの病症に対していくつかの治療法を羅列した。
- 7 草木を知らない人が多く、地域によって呼称が違うことに配慮して、草木の形（春・夏・秋）を図で示し簡単な説明を加えた。江戸の民家の庭に栽植のもの、または江戸近郊にあるものを採取して図にした。
- 8 できるだけ緩慢な薬を用い、峻烈な薬や攻撃的な薬は用いていない。
- 9 医者が到着したら速やかに委ね、本書に拘ってはならない。（病人の証には虚実・寒熱の別あり。医者は望診・問診・問診・切診により診断する。真寒假熱、假寒真熱という、似て非なるものがあり良医も誤診することがある。）
- 10 脈は医家の四診の一つで病を見定めるためには欠かせない。病人がいる家（病家）の人に理解させることは難しいため、脈法については言及しない。
- 11 一つの処方であっても必ず諸家の方書を参考にして同異を考え、様々な方法の中で、病家がかもとも使いやすい方法を採用した。処方の出所は掲載していない。

# 目録

上巻	卒倒の類	人俄に倒れる病の類
中巻	卒暴諸証	平居無事にして忽おこる病の類
	外傷の類	怪我の類
下巻	横死の類	病死以外の死
	諸物入九窮	身体の竅に諸物が入る類
	中毒の類	諸毒にあたる類
	婦人産前急証	妊婦の出産前に関する急病
	臨産急証	出産に関する急病
	産後急証	出産後の急病
	小児急証	小児の急病

## 上巻

1-1	中風	気を失い半身・手脚かす目・唇ゆがむ
1-2	脱暈	元気がなくなり気を失う、吐瀉後意識不明
1-3	交接昏迷	性交時男子気を失う・精液漏れ
1-4	中気	気が塞がり倒れる
1-5	痰厥	痰が胸につまり気を失う
1-6	中暑	暑気あたりで倒れ死ぬ
1-7	入井悶冒	古い室に入り患気にあたり倒れる
1-8	食厥	食べ物がつまり倒れる
1-9	恐怖卒死	ものに驚いて目をまわす
1-10	霍乱	心腹疼痛し苦しむ、吐瀉の有無
1-11	疔毒昏潰	疔の初期に気を失う
1-12	脚気衝心	脚気の毒により胸がつかあられる
1-13	積気暈倒	積気がつかあられ気を失う、疝気さしこむ
1-14	癰癤	てんかん
1-15	血厥	突然うつ状態になる、婦人に多い
1-16	波也宇知加太	肩や背中の痛みがひどくなり意識混濁
1-17	鍼暈	鍼により目が回る
1-18	入浴暈倒	湯あたり
1-19	醉眩	船酔い

## 中巻

2-1	吐血	吐血
2-2	衄血	鼻血
2-3	齒衄舌衄	歯茎・舌の出血
2-4	小便血	血尿
2-5	諸失血眩暈	大量出血によるめまいで気を失う
2-6	急喉痺	喉が腫れてふさがる
2-7	搶食風	口中のできもの・腫れ物
2-8	真頭痛	ひどい頭痛
2-9	心腹卒痛	腹部痛
2-10	急黄	前身が黄色くなる
2-11	卒瘵	話すことができなくなる
2-12	懸壘垂長	口蓋垂が腫れる
2-13	指頭卒痛	指先が痛む
2-14	無名腫毒	できもの・はれもの
2-15	卒聾	耳が聞こえなくなる
2-16	耳中卒痛	耳が痛む
2-17	舌卒腫大	舌が腫れる
2-18	小便急閉	尿閉、排尿困難
2-19	脱頰	頰がはずれる
2-20	卒然牙關緊急	口を開けることができない
2-21	脱肛不収	脱肛
2-22	長蟲下出	寄生虫
3-1	金瘡	刀傷
3-2	舌断	舌を切る
3-3	擦壞	擦り傷
3-4	癩撲	打撲、墜落、押し倒される、捻挫、落馬
3-5	眼為物傷	つき目、うち目
3-6	目睛突出	目の玉が飛び出る
3-7	湯湯火燒	熱湯や火による火傷
3-8	凍指欲望	凍傷により指がおちる
3-9	人咬傷	人による噛み傷
3-10	諸蟲咬傷	蟲による噛み傷
3-11	諸獸啣傷	禽獸類による噛み傷

## 下巻

4-1	煙燻死	煙にまかれて死ぬ
4-2	餓死	餓死
4-3	縊死	首をくっつけて死ぬ
4-4	溺死	水死
4-5	凍死	凍死
4-6	雷震死	落雷死
5-1	諸物入目	目にもが入る
5-2	諸物入耳中	耳にもが入る
5-3	誤吞銅鉄物	誤って銅や鉄のものを呑み込む
5-4	諸物哽咽	諸物喉にひっかかる
5-5	卒食噎	諸物喉につまる
5-6	蛇入人耳口鼻	諸物人の九窮に入る
5-7	諸物入肉	棘が刺さる
6-1	中諸薬毒	薬の毒にあたる
6-2	中諸殺菜毒	穀類や野菜の毒にあたる
6-3	中酒毒	酒の毒にあたる
6-4	中魚介禽獸肉	魚介や禽獸類の肉毒にあたる
7-1	胎動	胎動
7-2	胎漏	産門からの出血
7-3	子癰	妊娠時の意識不明
7-4	妊婦腹痛腰痛	妊娠時の腹痛・腰痛
7-5	子鳴	胎児鳴く
8-1	難産	難産
9-1	血暈	血の道
9-2	崩漏	婦人の大量出血
10-1	發生卒死	生まれてすぐ死ぬ
10-2	撮口	ほうづきむし
10-3	臍風	新生児、喘息してお腹がはり鳴かない
10-4	初生便閉	新生児の便秘、便閉
10-5	初生丹毒	新生児の全身が斑に赤くなる
10-6	初生口喉不開	新生児口開かない
10-7	驚風	手脚びくつききつける
10-8	走馬牙疳	歯茎がたれた、歯が落ちる